



看護の心をみんなの心に

5月12日は 看護の日

看護ニュース

5月12日は看護の日

21世紀の高齢社会を支えていくためには、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、私たち一人一人が分かち合うことが必要です。こうした心を、老若男女を問わずだれもが育むきっかけとなるよう、旧厚生省により、「看護の日」が1990年に制定されました。市民・有識者による「看護の日の制定を願う会」の運動が、きっかけでした。なぜ5/12かというと近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなんだそうです

看護の心とは

家庭の中には肌と肌の暖かなつながりのある世話(ケア)があり、地域社会には扶けあいがあり、健常者が一人一人の務めとして心や身体に障害のある人々を守り、医療者はキュアとともに患者である一人の人間へのケアの心を大切にする

看護の心、ケアの心を、ひろく国民の、女も男も等しく分かち合い、特に21世紀の高齢化社会を担っていく子供たちにも、その心をはぐくんでいきたいとの事で制定されました。

当園でも「みんなの看護について」とコメントをもらったところ
こんなコメントが返ってきました。

どこの病院、どこの先生も電子カルテに向かつてパチパチと診察しています

だからこそ看護師は
手で触って
目と目を合わせて
護る

事が大切であり、これからの時代も必要だと思えます。

とのコメントをくれました

学生時代に看護概論で

覚えましたが、忙しく仕事する中、忘れかけていた事を思い出す気がします

初心忘るべからずですね

肌と肌のつながりを大切にし、しっかりと看・護れるよう心掛けて行こうと振り返れた看護ニュースでした。

『手目護』⇓『看護』

